



# IPv6 セキュリティへのトラフィック フィルタ およびファイアウォールの実装

この章では、シスコのネットワーク デバイス用の Cisco IOS IPv6 トラフィック フィルタおよびファイアウォール機能を設定する方法について説明します。これらのセキュリティ機能を使用すると、パフォーマンス低下や障害、さらには悪意のある攻撃や通常のネットワーク ユーザによる悪意はないが破壊的なミスによって引き起こされるデータ損失やセキュリティ侵害からネットワークを守ることができます。

## 機能情報の確認

ご使用のソフトウェア リリースによっては、この章に記載されている機能の中に、一部サポートされていないものがあります。最新の機能情報と注意事項については、ご使用のプラットフォームとソフトウェア リリースに対応したリリース ノートを参照してください。この章に記載されている機能の詳細、および各機能がサポートされているリリースのリストについては、「[IPv6 セキュリティへのトラフィック フィルタおよびファイアウォールの実装の機能情報](#)」(P.31) を参照してください。

プラットフォーム サポートと Cisco IOS および Catalyst OS ソフトウェア イメージ サポートに関する情報を入手するには、Cisco Feature Navigator を使用します。Cisco Feature Navigator には、<http://www.cisco.com/go/cfn> からアクセスしてください。Cisco.com のアカウントは必要ありません。

## 目次

- 「[IPv6 セキュリティへのトラフィック フィルタおよびファイアウォールの実装の前提条件](#)」(P.2)
- 「[IPv6 セキュリティへのトラフィック フィルタおよびファイアウォールの実装の制約事項](#)」(P.2)
- 「[IPv6 セキュリティへのトラフィック フィルタおよびファイアウォールの実装に関する情報](#)」(P.2)
- 「[IPv6 セキュリティへのトラフィック フィルタおよびファイアウォールの実装方法](#)」(P.5)
- 「[IPv6 セキュリティへのトラフィック フィルタおよびファイアウォールの実装の設定例](#)」(P.26)
- 「[その他の関連資料](#)」(P.29)
- 「[IPv6 セキュリティへのトラフィック フィルタおよびファイアウォールの実装の機能情報](#)」(P.31)

## IPv6 セキュリティへのトラフィック フィルタおよびファイアウォールの実装の前提条件

IPv6 アドレッシングおよび基本設定を熟知している必要があります。詳細については、「[Implementing IPv6 Addressing and Basic Connectivity](#)」の章を参照してください。

## IPv6 セキュリティへのトラフィック フィルタおよびファイアウォールの実装の制約事項

Cisco IOS Release 12.2(2)T から Cisco IOS Release 12.2(13)T、および Cisco IOS Release 12.0(22)S 以降のリリースでは、標準の IPv6 Access Control List (ACL; アクセス コントロール リスト) 機能だけがサポートされています。Cisco IOS Release 12.0(23)S および 12.2(13)T 以降のリリースでは、標準の IPv6 ACL 機能が拡張されて、IPv6 オプション ヘッダー、および任意でより細かい制御を行うための上位層プロトコル タイプ情報に基づくトラフィック フィルタリングがサポートされています (IPv4 での拡張 ACL に似た機能)。

## IPv6 セキュリティへのトラフィック フィルタおよびファイアウォールの実装に関する情報

IPv6 にセキュリティ機能を実装するには、次の概念を理解する必要があります。

- 「[IPv6 トラフィック フィルタリングのアクセス コントロール リスト](#)」 (P.2)
- 「[Cisco IOS Firewall for IPv6](#)」 (P.3)

## IPv6 トラフィック フィルタリングのアクセス コントロール リスト

IPv6 での標準の ACL 機能は、IPv4 での標準の ACL に似ています。アクセス リストによって、ルーター インターフェイスでブロックされるトラフィックおよび転送されるトラフィックが決定され、送信元アドレスと宛先アドレスに基づいて、特定のインターフェイスへの着信と発信をフィルタリングできます。各アクセス リストの最後には、暗黙的な **deny** 文が指定されています。IPv6 ACL を定義し、拒否条件と許可条件を設定するには、グローバル コンフィギュレーション モードで **deny** キーワードと **permit** キーワードを指定して **ipv6 access-list** コマンドを使用します。

Cisco IOS Release 12.0(23)S および 12.2(13)T 以降では、標準 IPv6 ACL 機能が拡張されて、IPv6 オプション ヘッダー、および任意でより細かい制御を行うための上位層プロトコル タイプ情報に基づくトラフィック フィルタリングがサポートされています (IPv4 での拡張 ACL に似た機能)。

## IPsec 認証ヘッダーの IPv6 ACL 拡張

この機能によって、Authentication Header (AH; 認証ヘッダー) の有無にかかわらず、TCP、User Datagram Protocol (UDP; ユーザ データグラム プロトコル)、ICMP、SCTP などの Upper Layer Protocol (ULP; 上位層プロトコル) でマッチングを実行できます。

TCP または UDP トラフィックは、AH が存在する場合でも存在しない場合でも、TCP、UDP、ICMP、SCTP などの Upper Layer Protocol (ULP; 上位層プロトコル) に対してマッチングできます。この機能が導入されるまでは、このようなマッチングは AH が存在しない場合にだけ使用できました。

この機能によって、キーワード **auth** が **permit** コマンドと **deny** コマンドに導入されました。 **auth** キーワードを指定すると、特定のプロトコル、つまり TCP や UDP とともに認証ヘッダーが存在するかどうかを照らしてトラフィックをマッチングできます。

AH ヘッダーが存在する場合は、IPv6 トラフィックを ULP に対してマッチングできます。このマッチングを実行するには、**permit** コマンドまたは **deny** コマンドを使用するときに、*protocol* 引数に **ahp** オプションを入力します。

## IPv6 でのアクセス クラス フィルタリング

IPv6 ACL に基づく、ルータとの間の着信接続と発信接続のフィルタリングは、ライン コンフィギュレーション モードで **ipv6 access-class** コマンドを使用して実行します。 **ipv6 access-class** コマンドは、IPv6 ACL が名前前で定義される点を除き、**access-class** コマンドに似ています。 IPv6 ACL が着信トラフィックに適用される場合、ACL 内の送信元アドレスは、着信接続の送信元アドレスに照らしてマッチングされ、ACL 内の宛先アドレスは、インターフェイス上のローカル ルータ アドレスと照合されます。 IPv6 ACL が発信トラフィックに適用される場合、ACL 内の送信元アドレスは、インターフェイス上のローカル ルータ アドレスに照らしてマッチングされ、ACL 内の宛先アドレスは、発信接続の送信元アドレスと照合されます。 ユーザが任意の接続を試行できるように、すべての仮想端末回線と同じ制限を設定することを推奨します。

## Cisco IOS Firewall for IPv6

Cisco IOS Firewall 機能を使用すると、高度なトラフィック フィルタリング機能をネットワークのファイアウォールの不可欠な部分として組み込むことができます。 Cisco IOS Firewall for IPv6 によって、Cisco IOS Firewall を IPv6 ネットワークに実装できます。 Cisco IOS Firewall は、IPv4 ネットワーク用の Cisco IOS Firewall と共存し、すべてのデュアル スタック ルータでサポートされています。

Cisco IOS Firewall for IPv6 機能は、次のとおりです。

- フラグメント化されたパケット インスペクション：フラグメント ヘッダーを使用して、フラグメント処理をトリガーします。 Cisco IOS Firewall Virtual Fragment Reassembly (VFR) は、シーケンスから外れたフラグメントを調べ、それらのパケットを正しい順序に切り替え、一意の識別子が設定された単一の IP からのフラグメント数を調べ (Denial-of-Service (DoS; サービス拒絶) 攻撃)、仮想再アセンブリを実行して、パケットを上位層プロトコルに移動します。
- IPv6 DoS 攻撃の軽減：SYN 半開接続を含む、IPv4 実装と同じ方法で、軽減メカニズムが実装されています。
- トンネル化パケット インスペクション：Cisco IOS Firewall ルータで終端するトンネル化 IPv6 パケットは、Cisco IOS Firewall for IPv6 によって検査できます。
- ステートフルパケット インスペクション：この機能によって、TCP、UDP、Internet Control Message Protocol version 6 (ICMPv6; インターネット制御メッセージプロトコルバージョン 6)、および FTP の各セッションのステートフルパケット インスペクションを実行できます。
- IPv4 ネットワークから発信され、IPv6 環境で終端するパケットのステートフル インスペクション：この機能では、IPv4 から IPv6 への変換サービスを使用します。
- 大半の IPv6 拡張ヘッダー情報の解釈または認識：この機能によって、ルーティングヘッダー、ホップバイホップ オプションヘッダー、およびフラグメントヘッダーを含む、IPv6 拡張ヘッダー情報が解釈または認識されます。
- Port-to-Application Mapping (PAM)：Cisco IOS Firewall for IPv6 には PAM が含まれています。

## Cisco IOS Firewall for IPv6 での PAM

PAM を使用して、ネットワーク サービスとアプリケーション用の TCP または UDP ポート番号をカスタマイズできます。PAM ではこの情報を使用して、アプリケーションに関連する登録済み、つまり既知のポートと異なるポートを使用しているサービスを実行するネットワーク環境をサポートします。

PAM では、ポート情報を使用して、ポートからアプリケーションへのデフォルト マッピング情報のテーブルをファイアウォールで確立します。PAM テーブルの情報によって、Context-Based Access Control (CBAC; コンテキストベース アクセス コントロール) がサポートしているサービスを非標準ポートで実行できます。CBAC での調査は、アプリケーションに関連付けられている既知のポート、つまり登録済みのポートだけを使用するトラフィックに限定されますが、PAM を使用すると、ネットワーク管理者は、特定のアプリケーションおよびサービスのネットワーク アクセス コントロールをカスタマイズできます。

PAM では、ホストまたはサブネット固有のポート マッピングもサポートしています。これにより、標準 ACL を使用して単一のホストまたはサブネットに PAM を適用できます。ホストまたはサブネット固有のポート マッピングは、標準の ACL を使用して行われます。

## Cisco IOS Firewall アラート、監査証跡、およびシステム ロギング

Cisco IOS Firewall によって、ファイアウォールで追跡されたイベントに基づくリアルタイム アラートおよび監査証跡が生成されます。拡張された監査証跡機能では、システム ロギングを使用して、すべてのネットワーク トランザクションを追跡したり、タイムスタンプ、送信元ホスト、宛先ホスト、および使用されたポートを記録したり、高度なセッションベースのレポート用に送信バイト総数を記録したりします。リアルタイム アラートは、システムで疑わしいアクティビティが検出されると、システム ロギング エラー メッセージを中央管理コンソールに送信します。Cisco IOS Firewall インспекション ルールを使用して、アプリケーション プロトコル単位でアラートと監査証跡情報を設定できます。たとえば、TCP トラフィック用の監査証跡情報を生成する場合、TCP インспекションを定義する Cisco IOS Firewall ルールで、この情報の生成を指定できます。

Cisco IOS Firewall によって、検査されたセッションの詳細を記録する監査証跡メッセージが提供されます。監査証跡情報は、CBAC インспекション ルールを使用してアプリケーション単位で設定できます。検査されたプロトコルを識別するには、応答側に関連付けられているポート番号を使用します。ポート番号は、アドレスの直後に表示されます。

## IPv6 パケット インспекション

ヘッダー フィールド (トラフィック クラス、フロー ラベル、ペイロード長、次ヘッダー、ホップ リミット、および送信元アドレスや宛先アドレス) は、すべて IPv6 インспекション用に使用されます。IPv6 ヘッダー フィールドの詳細および説明については、RFC 2474 を参照してください。

## トンネリング サポート

IPv4 でトンネルされる IPv6 パケットは、検査されません。トンネルがルータで終端され、そのトンネルからの IPv6 出トラフィックが終端されない場合、そのトラフィックは検査されます。

## 仮想フラグメント再アセンブリ

VFR がイネーブルの場合、VFR 処理は、ACL 入力リストが着信パケットに照らしてチェックされたあとに開始されます。入力パケットには、適切な VFR 情報がタグ付けされます。

## Cisco IOS Firewall の制約事項

IPv6 では、Cisco IOS Intrusion Detection System (IDS; 侵入検知システム) がサポートされていません。

# IPv6 セキュリティへのトラフィック フィルタおよびファイアウォールの実装方法

次の各項の作業では、IPv6 用にセキュリティ機能を実装する方法について説明します。

- 「IPv6 トラフィック フィルタリングの設定」 (P.5)
- 「vty へのアクセスの制御」 (P.8)
- 「TCP または UDP マッチングの設定」 (P.11)
- 「Cisco IOS Release 12.2(11)T、12.0(22)S、または以前のリリースにおけるトラフィック フィルタリング用 IPv6 ACL の作成」 (P.12)
- 「Cisco IOS Firewall for IPv6 の設定」 (P.14)
- 「Cisco IOS Firewall for IPv6 の設定」 (P.14)
- 「IPv6 セキュリティの設定と動作の確認」 (P.19)
- 「IPv6 セキュリティの設定と動作のトラブルシューティング」 (P.21)

## IPv6 トラフィック フィルタリングの設定

ここでは、IPv6 トラフィック フィルタリングをイネーブルにする方法について説明します。

- 「トラフィック フィルタリング用の IPv6 ACL の作成および設定」 (P.5)
- 「インターフェイスへの IPv6 ACL の適用」 (P.8)

## 制約事項

- Cisco IOS Release 12.2(13)T、12.0(23)S、または以降のリリースを実行している場合は、「トラフィック フィルタリング用の IPv6 ACL の作成および設定」の項に進みます。Cisco IOS Release 12.2(11)T、12.0(22)S、または以前のリリースを実行している場合は、「Cisco IOS Release 12.2(11)T、12.0(22)S、または以前のリリースにおけるトラフィック フィルタリング用 IPv6 ACL の作成」の項に進みます。
- IPv6 ACL は、一意な名前前で定義されています (IPv6 では番号付き ACL はサポートしていません)。IPv4 ACL および IPv6 ACL は、同じ名前を共有できません。

## トラフィック フィルタリング用の IPv6 ACL の作成および設定

ここでは、トラフィックをフィルタリングし、ファイアウォールとして機能し、または潜在的なウイルスを検出するようにネットワーク デバイスを設定する方法について説明します。次の作業では、IPv6 ACL を作成し、Cisco IOS Release 12.2(13)T および 12.0(23)S または以降のリリースでトラフィックをフィルタリングするようにその IPv6 ACL を設定する方法について説明します。

## 前提条件

Cisco IOS Release 12.2(13)T および 12.0(23)S または以降のリリースでは、下位互換性のために、グローバル コンフィギュレーション モードでの **deny** キーワードと **permit** キーワードを指定した **ipv6 access-list** コマンドが引き続きサポートされています。ただし、グローバル コンフィギュレーション モードで拒否条件と許可条件を使用して定義された IPv6 ACL は、IPv6 アクセス リスト コンフィギュレーション モードに変換されます。変換された IPv6 ACL 設定の例については、「[IPv6 ACL の作成および適用：例](#)」の項を参照してください。

## 制約事項

- 各 IPv6 ACL には、IPv6 ネイバー ディスカバリをイネーブルにするための暗黙的な許可ルールが含まれています。ユーザは、ACL 内に `deny ipv6 any any` 文を配置することでこれらのルールを上書きできます。IPv6 ネイバー ディスカバリ プロセスでは、IPv6 ネットワーク層サービスを利用するため、デフォルトで、インターフェイス上での IPv6 ネイバー ディスカバリ パケットの送受信が IPv6 ACL によって暗黙的に許可されます。IPv4 の場合、IPv6 ネイバー ディスカバリ プロセスに相当する Address Resolution Protocol (ARP; アドレス解決プロトコル) では、個別のデータ リンク レイヤ プロトコルを利用するため、デフォルトで、インターフェイス上での ARP パケットの送受信が IPv4 ACL によって暗黙的に許可されます。
- 時間ベースの ACL および再帰 ACL は、Cisco 12000 シリーズ プラットフォーム上の IPv4 または IPv6 ではサポートされていません。Cisco 12000 シリーズでは、IPv6 の **permit** コマンドの **reflect** キーワード、**timeout** キーワード、および **time-range** キーワードが除外されています。

## 手順の概要

- enable**
- configure terminal**
- ipv6 access-list access-list-name**
- permit protocol {source-ipv6-prefix/prefix-length | any | host source-ipv6-address | auth} [operator [port-number]] {destination-ipv6-prefix/prefix-length | any | host destination-ipv6-address | auth} [operator [port-number]] [dest-option-type [doh-number | doh-type]] [dscp value] [flow-label value] [fragments] [log] [log-input] [mobility] [mobility-type [mh-number | mh-type]] [reflect name [timeout value]] [routing] [routing-type routing-number] [sequence value] [time-range name]**  
 または  
**deny protocol {source-ipv6-prefix/prefix-length | any | host source-ipv6-address | auth} [operator [port-number]] {destination-ipv6-prefix/prefix-length | any | host destination-ipv6-address | auth} [operator [port-number]] [dest-option-type [doh-number | doh-type]] [dscp value] [flow-label value] [fragments] [log] [log-input] [mobility] [mobility-type [mh-number | mh-type]] [routing] [routing-type routing-number] [sequence value] [time-range name] [undetermined-transport]**

## 手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<p><b>enable</b></p> <p>例： Router&gt; enable</p>	<p>特権 EXEC モードをイネーブルにします。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>必要に応じてパスワードを入力します。</li> </ul>
ステップ 2	<p><b>configure terminal</b></p> <p>例： Router# configure terminal</p>	<p>グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。</p>
ステップ 3	<p><b>ipv6 access-list access-list-name</b></p> <p>例： Router(config)# ipv6 access-list outbound</p>	<p>IPv6 ACL を定義し、IPv6 アクセス リスト コンフィギュレーション モードを開始します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><i>access-list name</i> 引数には、IPv6 ACL の名前を指定します。IPv6 ACL の名前にスペースまたは引用符を含めることはできません。また、先頭を数字にすることはできません。</li> </ul>
ステップ 4	<p><b>permit protocol</b> {source-ipv6-prefix/prefix-length   any   host source-ipv6-address   auth} [operator [port-number]] {destination-ipv6-prefix/prefix-length   any   host destination-ipv6-address   auth} [operator [port-number]] [dest-option-type [doh-number   doh-type]] [dscp value] [flow-label value] [fragments] [log] [log-input] [mobility] [mobility-type [mh-number   mh-type]] [reflect name [timeout value]] [routing] [routing-type routing-number] [sequence value] [time-range name]</p> <p>または</p> <p><b>deny protocol</b> {source-ipv6-prefix/prefix-length   any   host source-ipv6-address   auth} [operator [port-number]] {destination-ipv6-prefix/prefix-length   any   host destination-ipv6-address   auth} [operator [port-number]] [dest-option-type [doh-number   doh-type]] [dscp value] [flow-label value] [fragments] [log] [log-input] [mobility] [mobility-type [mh-number   mh-type]] [routing] [routing-type routing-number] [sequence value] [time-range name] [undetermined-transport]</p> <p>例： Router(config-ipv6-acl)# permit tcp 2001:0DB8:0300:0201::/32 eq telnet any reflect reflectout</p> <p>または</p> <p>例： Router(config-ipv6-acl)# deny tcp host 2001:0db8:1::1 any log-input</p>	<p>IPv6 ACL の許可条件または拒否条件を指定します。</p>

## インターフェイスへの IPv6 ACL の適用

ここでは、Cisco IOS Release 12.2(13)T および 12.0(23)S または以降のリリースで IPv6 ACL をインターフェイスに適用する方法について説明します。

### 手順の概要

1. `enable`
2. `configure terminal`
3. `interface type number`
4. `ipv6 traffic-filter access-list-name {in | out}`

### 手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<code>enable</code>  例： Router> enable	特権 EXEC モードをイネーブルにします。  • 必要に応じてパスワードを入力します。
ステップ 2	<code>configure terminal</code>  例： Router# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<code>interface type number</code>  例： Router(config)# interface ethernet 0	インターフェイスのタイプおよび番号を指定し、インターフェイス コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 4	<code>ipv6 traffic-filter access-list-name {in   out}</code>  例： Router(config-if)# ipv6 traffic-filter outbound out	指定した IPv6 アクセス リストを、前のステップで指定したインターフェイスに適用します。

## vty へのアクセスの制御

ここでは、ルータ上の vty へのアクセスを制限する方法について説明します。

- 「IPv6 ACL の作成によるアクセス クラス フィルタリングの提供」(P.8)
- 「仮想端末回線への IPv6 ACL の適用」(P.10)

## IPv6 ACL の作成によるアクセス クラス フィルタリングの提供

ここでは、IPv6 ACL を作成してアクセス クラス フィルタリングを提供することで、ルータ上の vty へのアクセスを制限する方法について説明します。



## 手順の概要

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **ipv6 access-list *access-list-name***
4. **permit protocol {source-ipv6-prefix/prefix-length | any | host source-ipv6-address | auth} [operator [port-number]] {destination-ipv6-prefix/prefix-length | any | host destination-ipv6-address | auth} [operator [port-number]] [dest-option-type [doh-number | doh-type]] [dscp value] [flow-label value] [fragments] [log] [log-input] [mobility] [mobility-type [mh-number | mh-type]] [reflect name [timeout value]] [routing] [routing-type routing-number] [sequence value] [time-range name]**  
 または  
**deny protocol {source-ipv6-prefix/prefix-length | any | host source-ipv6-address | auth} [operator [port-number]] {destination-ipv6-prefix/prefix-length | any | host destination-ipv6-address | auth} [operator [port-number]] [dest-option-type [doh-number | doh-type]] [dscp value] [flow-label value] [fragments] [log] [log-input] [mobility] [mobility-type [mh-number | mh-type]] [routing] [routing-type routing-number] [sequence value] [time-range name] [undetermined-transport]**

## 手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ1	<b>enable</b>  例： Router> enable	特権 EXEC モードをイネーブルにします。  • 必要に応じてパスワードを入力します。
ステップ2	<b>configure terminal</b>  例： Router# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。

コマンドまたはアクション	目的
<p>ステップ3 <code>ipv6 access-list access-list-name</code></p> <p>例： Router(config)# ipv6 access-list cisco</p>	IPv6 ACL を定義し、IPv6 アクセス リスト コンフィギュレーション モードを開始します。
<p>ステップ4 <code>permit protocol</code> {source-ipv6-prefix/prefix-length   any   host source-ipv6-address   auth} [operator [port-number]] {destination-ipv6-prefix/prefix-length   any   host destination-ipv6-address   auth} [operator [port-number]] [dest-option-type [doh-number   doh-type]] [dscp value] [flow-label value] [fragments] [log] [log-input] [mobility] [mobility-type [mh-number   mh-type]] [reflect name [timeout value]] [routing] [routing-type routing-number] [sequence value] [time-range name]</p> <p>または</p> <p><code>deny protocol</code> {source-ipv6-prefix/prefix-length   any   host source-ipv6-address   auth} [operator [port-number]] {destination-ipv6-prefix/prefix-length   any   host destination-ipv6-address   auth} [operator [port-number]] [dest-option-type [doh-number   doh-type]] [dscp value] [flow-label value] [fragments] [log] [log-input] [mobility] [mobility-type [mh-number   mh-type]] [routing] [routing-type routing-number] [sequence value] [time-range name] [undetermined-transport]</p> <p>例： Router(config-ipv6-acl)# permit ipv6 host 2001:0DB8:0:4::32 any eq telnet または</p> <p>例： Router(config-ipv6-acl)# deny ipv6 host 2001:0DB8:0:6::6/32 any</p>	IPv6 ACL の許可条件または拒否条件を指定します。

## 仮想端末回線への IPv6 ACL の適用

アクセス クラス フィルタリング用の IPv6 ACL を作成したあとに、指定した仮想端末回線にその ACL を適用する必要があります。次の作業では、仮想端末回線に ACL を適用する方法を示します。

### 手順の概要

1. `enable`
2. `configure terminal`
3. `line [aux | console | tty | vty] line-number [ending-line-number]`
4. `ipv6 access-class ipv6-access-list-name {in | out}`

## 手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<code>enable</code>  例： Router> enable	特権 EXEC モードをイネーブルにします。 <ul style="list-style-type: none"><li>必要に応じてパスワードを入力します。</li></ul>
ステップ 2	<code>configure terminal</code>  例： Router# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<code>line [aux   console   tty   vty] line-number</code> [ending-line-number]  例： Router(config)# line vty 0 4	設定する特定の回線を識別し、ライン コンフィギュレーション モードを開始します。 <ul style="list-style-type: none"><li>この例では、<b>vty</b> キーワードを使用して、リモート コンソール アクセス用の仮想端末回線を指定します。</li></ul>
ステップ 4	<code>ipv6 access-class ipv6-access-list-name {in   out}</code>  例： Router(config-line)# ipv6 access-class cisco in	IPv6 ACL に基づいて、ルータとの間の着信接続と発信接続をフィルタリングします。

## TCP または UDP マッチングの設定

AH の有無に関係なく、TCP または UDP トラフィックを ULP (TCP、UDP、ICMP、SCTP など) に対してマッチングできます。この機能が導入されるまでは、このようなマッチングは AH が存在しない場合にだけ使用できました。

AH が存在する場合は、**permit icmp** コマンドおよび **deny icmp** コマンドで **auth** キーワードを使用すると、TCP または UDP トラフィックを ULP に対してマッチングできます。AH が存在しない TCP または UDP トラフィックでは、マッチングは実行されません。

AH ヘッダーが存在する場合は、IPv6 トラフィックを ULP に対してマッチングできます。このマッチングを実行するには、**permit** コマンドまたは **deny** コマンドを使用するときに、*protocol* 引数に **ahp** オプションを入力します。

この作業では、AH が存在する場合に、TCP または UDP トラフィックを ULP に対してマッチングできます。

## 手順の概要

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **ipv6 access-list access-list-name**
4. **permit icmp auth**

または  
**deny icmp auth**

## 手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<code>enable</code>  例： Router# <code>enable</code>	特権 EXEC モードをイネーブルにします。  • 必要に応じてパスワードを入力します。
ステップ 2	<code>configure terminal</code>  例： Router# <code>configure terminal</code>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<code>ipv6 access-list access-list-name</code>  例： Router(config)# <code>ipv6 access-list list1</code>	IPv6 アクセス リストを定義し、ルータを IPv6 アクセス リスト コンフィギュレーション モードにします。
ステップ 4	<code>permit icmp auth</code>  または <code>deny icmp auth</code>  例： Router(config-ipv6-acl)# <code>permit icmp auth</code>	AH の存在に照らしたマッチングに使用される <b>auth</b> キーワードを使用して、IPv6 ACL の許可条件と拒否条件を指定します。

## Cisco IOS Release 12.2(11)T、12.0(22)S、または以前のリリースにおけるトラフィック フィルタリング用 IPv6 ACL の作成

ここでは、Cisco IOS Release 12.2(11)T、12.0(22)S、または以前のリリースで ACL を作成および適用する方法について説明します。

- 「[Cisco IOS Release 12.2\(11\)T、12.0\(22\)S、または以前のリリースにおける IPv6 ACL の作成](#)」 (P.12)
- 「[Cisco IOS Release 12.2\(11\)T、12.0\(22\)S、または以前のリリースのインターフェイスへの IPv6 ACL の適用](#)」 (P.13)

## Cisco IOS Release 12.2(11)T、12.0(22)S、または以前のリリースにおける IPv6 ACL の作成

ここでは、IPv6 ACL を作成し、Cisco IOS Release 12.2(11)T、12.0(22)S、または以前のリリースのトラフィックを通過またはブロックするようにこの IPv6 ACL を設定する方法について説明します。

## 制約事項

- `source-ipv6-prefix` 引数によって、トラフィックがパケット送信元アドレス別にフィルタリングされ、`destination-ipv6-prefix` 引数によって、トラフィックがパケット宛先アドレス別にフィルタリングされます。

- Cisco IOS ソフトウェアでは、アクセス リスト内の許可および拒否の条件文に照らして、IPv6 プレフィクスを比較します。すべての IPv6 アクセス リスト（許可および拒否の条件文が含まれていないアクセス リストを含む）には、最後の一致条件として暗黙的な `deny any any` 文が含まれています。各条件文に適用されるプライオリティ値またはシーケンス値は、文がアクセス リストで適用される順番を示しています。

## 手順の概要

1. `enable`
2. `configure terminal`
3. `ipv6 access-list access-list-name {permit | deny} {source-ipv6-prefix/prefix-length | any} {destination-ipv6-prefix/prefix-length | any} [priority value]`

## 手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<code>enable</code>  例： Router> enable	特権 EXEC モードをイネーブルにします。  • 必要に応じてパスワードを入力します。
ステップ 2	<code>configure terminal</code>  例： Router# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<code>ipv6 access-list access-list-name {permit   deny} {source-ipv6-prefix/prefix-length   any} {destination-ipv6-prefix/prefix-length   any} [priority value]</code>  例： Router(config)# ipv6 access-list list2 deny fec0:0:0:2::/64 any	IPv6 ACL を作成し、ACL の拒否条件または許可条件を設定します。

## Cisco IOS Release 12.2(11)T、12.0(22)S、または以前のリリースのインターフェイスへの IPv6 ACL の適用

ここでは、Cisco IOS Release 12.2(11)T、12.0(22)S、または以前のリリースのインターフェイスに IPv6 ACL を適用する方法について説明します。

## 手順の概要

1. `enable`
2. `configure terminal`
3. `interface type number`
4. `ipv6 traffic-filter access-list-name {in | out}`

## 手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<code>enable</code>  例： Router> enable	特権 EXEC モードをイネーブルにします。  • 必要に応じてパスワードを入力します。
ステップ 2	<code>configure terminal</code>  例： Router# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<code>interface type number</code>  例： Router(config)# interface ethernet 0	インターフェイスのタイプおよび番号を指定し、インターフェイス コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 4	<code>ipv6 traffic-filter access-list-name {in   out}</code>  例： Router(config-if)# ipv6 traffic-filter list2 out	指定した IPv6 アクセス リストを、前の手順で指定したインターフェイスに適用します。

## Cisco IOS Firewall for IPv6 の設定

ここでは、IPv6 環境用の Cisco IOS Firewall を設定する方法について説明します。この設定シナリオでは、パケット インспекションと ACL の両方を使用します。

## 手順の概要

1. `enable`
2. `configure terminal`
3. `ipv6 unicast-routing`
4. `ipv6 inspect name inspection-name protocol [alert {on | off}] [audit-trail {on | off}] [timeout seconds]`
5. `interface type number`
6. `ipv6 address {ipv6-address/prefix-length | prefix-name sub-bits/prefix-length}`
7. `ipv6 enable`
8. `ipv6 traffic-filter access-list-name {in | out}`
9. `ipv6 inspect inspect-name`
10. `ipv6 access-list access-list-name`
11. `permit protocol {source-ipv6-prefix/prefix-length | any | host source-ipv6-address | auth} [operator [port-number]] {destination-ipv6-prefix/prefix-length | any | host destination-ipv6-address | auth} [operator [port-number]] [dest-option-type [doh-number | doh-type]] [dscp value] [flow-label value] [fragments] [log] [log-input] [mobility] [mobility-type [mh-number | mh-type]] [reflect name [timeout value]] [routing] [routing-type routing-number] [sequence value] [time-range name]`

または

```
deny protocol {source-ipv6-prefix/prefix-length | any | host source-ipv6-address | auth} [operator
[port-number]] {destination-ipv6-prefix/prefix-length | any | host destination-ipv6-address | auth}
[operator [port-number]] [dest-option-type [doh-number | doh-type]] [dscp value] [flow-label
value] [fragments] [log] [log-input] [mobility] [mobility-type [mh-number | mh-type]] [routing]
[routing-type routing-number] [sequence value] [time-range name] [undetermined-transport]
```

## 手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<b>enable</b>  例： Router> enable	特権 EXEC モードをイネーブルにします。 • 必要に応じてパスワードを入力します。
ステップ 2	<b>configure terminal</b>  例： Router# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>ipv6 unicast-routing</b>  例： Router(config)# ipv6 unicast-routing	IPv6 ユニキャスト ルーティングをイネーブルにします。
ステップ 4	<b>ipv6 inspect name inspection-name protocol</b> [alert {on   off}] [audit-trail {on   off}] [timeout seconds]  例： Router(config)# ipv6 inspect name ipv6_test icmp timeout 60	ファイアウォール用の一連の IPv6 インспекション ルールを定義します。
ステップ 5	<b>interface type number</b>  例： Router(config)# interface FastEthernet0/0	インспекションが実行されるインターフェイスを指定します。
ステップ 6	<b>ipv6 address {ipv6-address/prefix-length   prefix-name sub-bits/prefix-length}</b>  例： Router(config-if)# ipv6 address 3FFE:C000:0:7::/64 eui-64	インспекション インターフェイスのアドレスを指定します。
ステップ 7	<b>ipv6 enable</b>  例： Router(config-if)# ipv6 enable	IPv6 ルーティングをイネーブルにします。 <b>(注)</b> この手順は、IPv6 アドレスを手順 6 で指定している場合は省略可能です。
ステップ 8	<b>ipv6 traffic-filter access-list-name {in   out}</b>  例： Router(config-if)# ipv6 traffic-filter outbound out	指定した IPv6 アクセス リストを、前の手順で指定したインターフェイスに適用します。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 9	<pre>ipv6 inspect inspection-name {in   out}</pre> <p>例:</p> <pre>Router(config)#ipv6 inspect ipv6_test in</pre>	一連のインスペクション ルールを適用します。
ステップ 10	<pre>ipv6 access-list access-list-name</pre> <p>例:</p> <pre>Router(config)# ipv6 access-list outbound</pre>	IPv6 ACL を定義し、IPv6 アクセス リスト コンフィギュレーション モードを開始します。ルータにより、Router(config-ipv6-acl)# に対する変更が要求されます。
ステップ 11	<pre>permit protocol {source-ipv6-prefix/prefix-length   any   host source-ipv6-address   auth} [operator [port-number]] {destination-ipv6-prefix/prefix-length   any   host destination-ipv6-address   auth} [operator [port-number]] [dest-option-type [doh-number   doh-type]] [dscp value] [flow-label value] [fragments] [log] [log-input] [mobility] [mobility-type [mh-number   mh-type]] [reflect name [timeout value]] [routing] [routing-type routing-number] [sequence value] [time-range name]</pre> <p>または</p> <pre>deny protocol {source-ipv6-prefix/prefix-length   any   host source-ipv6-address   auth} [operator [port-number]] {destination-ipv6-prefix/prefix-length   any   host destination-ipv6-address   auth} [operator [port-number]] [dest-option-type [doh-number   doh-type]] [dscp value] [flow-label value] [fragments] [log] [log-input] [mobility] [mobility-type [mh-number   mh-type]] [routing] [routing-type routing-number] [sequence value] [time-range name] [undetermined-transport]</pre> <p>例:</p> <pre>Router(config-ipv6-acl)# permit tcp 2001:0DB8:0300:0201::/32 any reflect reflectout</pre> <p>または</p> <p>例:</p> <pre>Router(config-ipv6-acl)# deny tcp fec0:0:0:0201::/64 any</pre>	IPv6 ACL の許可条件または拒否条件を指定します。

## PAM for IPv6 の設定

次の各項の作業では、PAM for IPv6 を設定する方法について説明します。

- 「PAM 用の IPv6 アクセス クラス フィルタの作成」 (P.16)
- 「PAM への IPv6 アクセス クラス フィルタの適用」 (P.18)

### PAM 用の IPv6 アクセス クラス フィルタの作成

ここでは、PAM 環境で使用する IPv6 アクセス クラス フィルタを作成する方法について説明します。



## 手順の概要

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **ipv6 access-list *access-list-name***
4. **permit protocol {source-ipv6-prefix/prefix-length | any | host source-ipv6-address | auth} [operator [port-number]] {destination-ipv6-prefix/prefix-length | any | host destination-ipv6-address | auth} [operator [port-number]] [dest-option-type [doh-number | doh-type]] [dscp value] [flow-label value] [fragments] [log] [log-input] [mobility] [mobility-type [mh-number | mh-type]] [reflect name [timeout value]] [routing] [routing-type routing-number] [sequence value] [time-range name]**  
 または  
**deny protocol {source-ipv6-prefix/prefix-length | any | host source-ipv6-address | auth} [operator [port-number]] {destination-ipv6-prefix/prefix-length | any | host destination-ipv6-address | auth} [operator [port-number]] [dest-option-type [doh-number | doh-type]] [dscp value] [flow-label value] [fragments] [log] [log-input] [mobility] [mobility-type [mh-number | mh-type]] [routing] [routing-type routing-number] [sequence value] [time-range name] [undetermined-transport]**

## 手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ1	<b>enable</b>  例： Router> enable	特権 EXEC モードをイネーブルにします。  • 必要に応じてパスワードを入力します。
ステップ2	<b>configure terminal</b>  例： Router# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。

コマンドまたはアクション	目的
<p>ステップ3 <code>ipv6 access-list access-list-name</code></p> <p>例： Router(config)# ipv6 access-list outbound</p>	IPv6 ACL を定義し、IPv6 アクセス リスト コンフィギュレーション モードを開始します。ルータによって、Router(config-ipv6-acl)# への変更が要求されます。
<p>ステップ4 <code>permit protocol</code> {source-ipv6-prefix/prefix-length   any   host source-ipv6-address   auth} [operator [port-number]] {destination-ipv6-prefix/prefix-length   any   host destination-ipv6-address   auth} [operator [port-number]] [dest-option-type [doh-number   doh-type]] [dscp value] [flow-label value] [fragments] [log] [log-input] [mobility] [mobility-type [mh-number   mh-type]] [reflect name [timeout value]] [routing] [routing-type routing-number] [sequence value] [time-range name]</p> <p>または</p> <p><code>deny protocol</code> {source-ipv6-prefix/prefix-length   any   host source-ipv6-address   auth} [operator [port-number]] {destination-ipv6-prefix/prefix-length   any   host destination-ipv6-address   auth} [operator [port-number]] [dest-option-type [doh-number   doh-type]] [dscp value] [flow-label value] [fragments] [log] [log-input] [mobility] [mobility-type [mh-number   mh-type]] [routing] [routing-type routing-number] [sequence value] [time-range name] [undetermined-transport]</p> <p>例： Router(config-ipv6-acl)# permit tcp 2001:0DB8:0300:0201::/32 any reflect reflectout または</p> <p>例： Router(config-ipv6-acl)# deny tcp fec0:0:0:0201::/64 any</p>	IPv6 ACL の許可条件または拒否条件を指定します。

## PAM への IPv6 アクセス クラス フィルタの適用

IPv6 アクセス クラス フィルタの作成後、そのフィルタを PAM に適用するには、次の作業を実行します。

### 手順の概要

1. `enable`
2. `configure terminal`
3. `ipv6 port-map application-name port port-num [list acl-name]`

## 手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<code>enable</code>  例： Router> enable	特権 EXEC モードをイネーブルにします。  • 必要に応じてパスワードを入力します。
ステップ 2	<code>configure terminal</code>  例： Router# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<code>ipv6 port-map application-name port port-num</code> [ <code>list acl-name</code> ]  例： Router(config)# ipv6 port-map ftp port 8090 list PAMACL	システムの PAM を確立します。

## IPv6 セキュリティの設定と動作の確認

ここでは、IPv6 セキュリティ オプションの設定と動作を確認するための情報を表示する方法について説明します。必要に応じて次のコマンドを使用して、設定と動作を確認します。

## 手順の概要

1. `show crypto ipsec sa [map map-name | address | identity | interface interface-type interface-number | peer [vrf fvrf-name] address | vrf ivrf-name | ipv6 [interface-type interface-number]] [detail]`
2. `show crypto isakmp peer [config | detail]`
3. `show crypto isakmp profile`
4. `show crypto isakmp sa [active | standby | detail | nat]`
5. `show ipv6 access-list [access-list-name]`
6. `show ipv6 inspect {name inspection-name | config | interfaces | session [detail] | all}`
7. `show ipv6 port-map [application | port port-number]`
8. `show ipv6 prefix-list [detail | summary] [list-name]`
9. `show ipv6 virtual-reassembly interface interface-type`
10. `show logging [slot slot-number | summary]`

## 手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<pre>show crypto ipsec sa [map map-name   address   identity   interface interface-type interface-number   peer [vrf fvrf-name] address   vrf ivrf-name   ipv6 [interface-type interface-number]] [detail]</pre> <p>例： Router# show crypto ipsec sa ipv6</p>	現在の SA によって使用されている設定を表示します。
ステップ 2	<pre>show crypto isakmp peer [config   detail]</pre> <p>例： Router# show crypto isakmp peer</p>	ピアの説明を表示します。
ステップ 3	<pre>show crypto isakmp profile</pre> <p>例： Router# show crypto isakmp profile</p>	ルータに定義されている ISAKMP プロファイルをすべてリストします。
ステップ 4	<pre>show crypto isakmp sa [active   standby   detail   nat]</pre> <p>例： Router# show crypto isakmp sa</p>	現在の IKE SA を表示します。
ステップ 5	<pre>show ipv6 access-list [access-list-name]</pre> <p>例： Router# show ipv6 access-list</p>	現在のすべての IPv6 アクセス リストの内容を表示します。
ステップ 6	<pre>show ipv6 inspect {name inspection-name   config   interfaces   session [detail]   all}</pre> <p>例： Router# show ipv6 inspect interfaces</p>	CBAC の設定およびセッション情報を表示します。
ステップ 7	<pre>show ipv6 port-map [application   port port-number]</pre> <p>例： Router# show ipv6 port-map ftp</p>	PAM の設定を表示します。
ステップ 8	<pre>show ipv6 prefix-list [detail   summary] [list-name]</pre> <p>例： Router# show ipv6 prefix-list</p>	IPv6 プレフィクス リストまたは IPv6 プレフィクス リストのエントリに関する情報を表示します。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 9	<pre>show ipv6 virtual-reassembly interface interface-type</pre> <p>例： Router# show ipv6 virtual-reassembly interface e1/1</p>	VFR の設定および統計情報を表示します。
ステップ 10	<pre>show logging [slot slot-number   summary]</pre> <p>例： Router# show logging</p>	<p>システム ロギング (syslog) の状態および標準のシステム ロギング バッファの内容を表示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>log</b> キーワードまたは <b>log-input</b> キーワードが指定されたアクセス リスト エントリは、パケットがそのアクセス リスト エントリに一致した場合に記録されます。</li> </ul>

## IPv6 セキュリティの設定と動作のトラブルシューティング

この任意の作業では、IPv6 セキュリティ オプションの設定と動作をトラブルシューティングするための情報を表示する方法について説明します。次のコマンドを必要なときにだけ使用して、設定と動作を確認します。


### 手順の概要

1. **enable**
2. **clear ipv6 access-list** [*access-list-name*]
3. **clear ipv6 inspect** {*session session-number* | **all**}
4. **clear ipv6 prefix-list** [*prefix-list-name*] [*ipv6-prefix/prefix-length*]
5. **debug crypto ipsec**
6. **debug crypto engine packet** [**detail**]
7. **debug ipv6 inspect** {**function-trace** | **object-creation** | **object-deletion** | **events** | **timers** | **protocol** | **detailed**}
8. **debug ipv6 packet** [**access-list access-list-name**] [**detail**]

### 手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<pre>enable</pre> <p>例： Router# enable</p>	<p>特権 EXEC モードをイネーブルにします。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 必要に応じてパスワードを入力します。</li> </ul>
ステップ 2	<pre>clear ipv6 access-list [access-list-name]</pre> <p>例： Router# clear ipv6 access-list tin</p>	IPv6 アクセス リストの一致カウンタをリセットします。

## IPv6 セキュリティへのトラフィック フィルタおよびファイアウォールの実装方法

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 3	<code>clear ipv6 inspect {session session-number   all}</code>  例： Router# clear ipv6 inspect all	特定の IPv6 セッションまたはすべての IPv6 インспекション セッションを削除します。
ステップ 4	<code>clear ipv6 prefix-list [prefix-list-name] [ipv6-prefix/prefix-length]</code>  例： Router# clear ipv6 prefix-list	IPv6 プレフィクス リスト エントリのヒット カウントをリセットします。
ステップ 5	<code>debug crypto ipsec</code>  例： Router# debug crypto ipsec	IPsec ネットワーク イベントを表示します。
ステップ 6	<code>debug crypto engine packet [detail]</code>  例： Router# debug crypto engine packet	IPv6 パケットの内容を表示します。   <b>注意</b> 複数のパケットが暗号化される場合、このコマンドを使用すると、システムのフラグディングが発生し、CPU 使用率が高くなる可能性があります。
ステップ 7	<code>debug ipv6 inspect {function-trace   object-creation   object-deletion   events   timers   protocol   detailed}</code>  例： Router# debug ipv6 inspect timers	Cisco IOS Firewall イベントに関するメッセージを表示します。
ステップ 8	<code>debug ipv6 packet [access-list access-list-name] [detail]</code>  例： Router# debug ipv6 packet access-list PAK-ACL	IPv6 パケットのデバッグ メッセージを表示します。

## 例

ここでは、次の出力例について説明します。

- 「show crypto ipsec sa ipv6 コマンドの出力例」 (P.23)
- 「show crypto isakmp peer コマンドの出力例」 (P.24)
- 「show crypto isakmp profile コマンドの出力例」 (P.24)
- 「show crypto isakmp sa コマンドの出力例」 (P.24)
- 「show ipv6 access-list コマンドの出力例」 (P.25)
- 「show ipv6 prefix-list コマンドの出力例」 (P.25)
- 「show ipv6 virtual-reassembly コマンドの出力例」 (P.25)
- 「show logging コマンドの出力例」 (P.26)
- 「clear ipv6 access-list コマンドの出力例」 (P.26)

## show crypto ipsec sa ipv6 コマンドの出力例

次に、**show crypto ipsec sa ipv6** コマンドの出力例を示します。

```
Router# show crypto ipsec sa ipv6

interface: Tunnel0
  Crypto map tag: Tunnel0-head-0, local addr 3FFE:2002::A8BB:CCFF:FE01:9002

protected vrf: (none)
local ident (addr/mask/prot/port): (::/0/0/0)
remote ident (addr/mask/prot/port): (::/0/0/0)
current_peer 3FFE:2002::A8BB:CCFF:FE01:2C02 port 500
  PERMIT, flags={origin_is_acl,}
#pkts encaps: 133, #pkts encrypt: 133, #pkts digest: 133
#pkts decaps: 133, #pkts decrypt: 133, #pkts verify: 133
#pkts compressed: 0, #pkts decompressed: 0
#pkts not compressed: 0, #pkts compr. failed: 0
#pkts not decompressed: 0, #pkts decompress failed: 0
#send errors 60, #recv errors 0

local crypto endpt.: 3FFE:2002::A8BB:CCFF:FE01:9002,
remote crypto endpt.: 3FFE:2002::A8BB:CCFF:FE01:2C02
path mtu 1514, ip mtu 1514
current outbound spi: 0x28551D9A(676666778)

inbound esp sas:
  spi: 0x2104850C(553944332)
    transform: esp-des ,
    in use settings ={Tunnel, }
    conn id: 93, flow_id: SW:93, crypto map: Tunnel0-head-0
    sa timing: remaining key lifetime (k/sec): (4397507/148)
    IV size: 8 bytes
    replay detection support: Y
    Status: ACTIVE

inbound ah sas:
  spi: 0x967698CB(2524354763)
    transform: ah-sha-hmac ,
    in use settings ={Tunnel, }
    conn id: 93, flow_id: SW:93, crypto map: Tunnel0-head-0
    sa timing: remaining key lifetime (k/sec): (4397507/147)
    replay detection support: Y
    Status: ACTIVE

inbound pcp sas:

outbound esp sas:
  spi: 0x28551D9A(676666778)
    transform: esp-des ,
    in use settings ={Tunnel, }
    conn id: 94, flow_id: SW:94, crypto map: Tunnel0-head-0
    sa timing: remaining key lifetime (k/sec): (4397508/147)
    IV size: 8 bytes
    replay detection support: Y
    Status: ACTIVE

outbound ah sas:
  spi: 0xA83E05B5(2822636981)
    transform: ah-sha-hmac ,
    in use settings ={Tunnel, }
    conn id: 94, flow_id: SW:94, crypto map: Tunnel0-head-0
    sa timing: remaining key lifetime (k/sec): (4397508/147)
    replay detection support: Y
```

```
Status: ACTIVE
```

```
outbound pcp sas:
```

### show crypto isakmp peer コマンドの出力例

次の出力例は、IPv6 ルータ上のピアの説明を示しています。

```
Router# show crypto isakmp peer detail

Peer: 2001:0DB8:0:1::1 Port: 500 Local: 2001:0DB8:0:2::1
Phase1 id: 2001:0DB8:0:1::1
flags:
NAS Port: 0 (Normal)
IKE SAs: 1 IPsec SA bundles: 1
last_locker: 0x141A188, last_last_locker: 0x0
last_unlocker: 0x0, last_last_unlocker: 0x0
```

### show crypto isakmp profile コマンドの出力例

次の出力例は、IPv6 ルータで定義されている ISAKMP プロファイルを示しています。

```
Router# show crypto isakmp profile

ISAKMP PROFILE tom
Identities matched are:
ipv6-address 2001:0DB8:0:1::1/32
Certificate maps matched are:
Identity presented is: ipv6-address fqdn
keyring(s): <none>
trustpoint(s): <all>
```

### show crypto isakmp sa コマンドの出力例

次の出力例は、アクティブな IPv6 デバイスの SA を示しています。IPv4 デバイスは非アクティブです。

```
Router# show crypto isakmp sa detail

Codes: C - IKE configuration mode, D - Dead Peer Detection
       K - Keepalives, N - NAT-traversal
       X - IKE Extended Authentication
       psk - Preshared key, rsig - RSA signature
       renc - RSA encryption
IPv4 Crypto ISAKMP SA

C-id Local Remote I-VRF Status Encr Hash Auth DH
Lifetime Cap.

IPv6 Crypto ISAKMP SA

dst: 3FFE:2002::A8BB:CCFF:FE01:2C02
src: 3FFE:2002::A8BB:CCFF:FE01:9002
conn-id: 1001 I-VRF: Status: ACTIVE Encr: des Hash: sha Auth:
psk
DH: 1 Lifetime: 23:45:00 Cap: D Engine-id:Conn-id = SW:1

dst: 3FFE:2002::A8BB:CCFF:FE01:2C02
src: 3FFE:2002::A8BB:CCFF:FE01:9002
conn-id: 1002 I-VRF: Status: ACTIVE Encr: des Hash: sha Auth:
psk
DH: 1 Lifetime: 23:45:01 Cap: D Engine-id:Conn-id = SW:2
```



### show ipv6 access-list コマンドの出力例

次の例では、**show ipv6 access-list** コマンドを使用して、IPv6 ACL が正しく設定されていることを確認しています。

```
Router> show ipv6 access-list
```

```
IPv6 access list inbound
  permit tcp any any eq bgp reflect tcptraffic (8 matches) sequence 10
  permit tcp any any eq telnet reflect tcptraffic (15 matches) sequence 20
  permit udp any any reflect udptraffic sequence 30

IPv6 access list tcptraffic (reflexive) (per-user)
  permit tcp host 2001:0DB8:1::32 eq bgp host 2001:0DB8:2::32 eq 11000 timeout 300 (time
    left 243) sequence 1
  permit tcp host 2001:0DB8:1::32 eq telnet host 2001:0DB8:2::32 eq 11001 timeout 300
    (time left 296) sequence 2

IPv6 access list outbound
  evaluate udptraffic
  evaluate tcptraffic
```

### show ipv6 prefix-list コマンドの出力例

次に、**detail** キーワードを指定した **show ipv6 prefix-list** コマンドの出力例を示します。

```
Router# show ipv6 prefix-list detail
```

```
Prefix-list with the last deletion/insertion: bgp-in
ipv6 prefix-list 6to4:
  count: 1, range entries: 0, sequences: 5 - 5, refcount: 2
  seq 5 permit 2001:0db8::/32 (hit count: 313, refcount: 1)
ipv6 prefix-list aggregate:
  count: 2, range entries: 2, sequences: 5 - 10, refcount: 30
  seq 5 deny 3FFE:C00::/24 ge 25 (hit count: 568, refcount: 1)
  seq 10 permit ::/0 le 48 (hit count: 31310, refcount: 1)
ipv6 prefix-list bgp-in:
  count: 6, range entries: 3, sequences: 5 - 30, refcount: 31
  seq 5 deny 5F00::/8 le 128 (hit count: 0, refcount: 1)
  seq 10 deny ::/0 (hit count: 0, refcount: 1)
  seq 15 deny ::/1 (hit count: 0, refcount: 1)
  seq 20 deny ::/2 (hit count: 0, refcount: 1)
  seq 25 deny ::/3 ge 4 (hit count: 0, refcount: 1)
  seq 30 permit ::/0 le 128 (hit count: 240664, refcount: 0)
```

### show ipv6 virtual-reassembly コマンドの出力例

次に、**interface** キーワードを指定した **show ipv6 virtual-reassembly** コマンドの出力例を示します。

```
Router# show ipv6 virtual-reassembly interface e1/1
```

```
Configuration Information:
```

```
-----
Virtual Fragment Reassembly (VFR) is ENABLED...
Maximum number of datagram that can be reassembled at a time: 64
Maximum number of fragments per datagram: 8
Timeout value of a datagram: 3 seconds
```

```
Statistical Information:
```

```
-----
Number of datagram being reassembled:12
Number of fragments being processed:48
Total number of datagram reassembled:6950
Total number of datagram failed: 9
```

### show logging コマンドの出力例

次の例では、**show logging** コマンドを使用して、list1 という名前のアクセス リストの最初の行（シーケンス 10）に一致するロギング エントリを表示します。

```
Router> show logging

00:00:36: %IPV6-6-ACCESSLOGP: list list1/10 permitted tcp 2001:0db8:1::1(11001)
(Ethernet0/0) -> 2001:0db8:1::2(179), 1 packet
```

### clear ipv6 access-list コマンドの出力例

次の例では、**show ipv6 access-list** コマンドを使用して、list1 という名前のアクセス リスト用の一部の一致カウンタを表示します。**clear ipv6 access-list** コマンドを発行して、list1 という名前のアクセス リスト用の一致カウンタをリセットします。**show ipv6 access-list** コマンドを再度使用して、一致カウンタがリセットされたことを示します。

```
Router> show ipv6 access-list list1

IPv6 access list list1
  permit tcp any any log-input (6 matches) sequence 10
  permit icmp any any echo-request log-input sequence 20
  permit icmp any any echo-reply log-input sequence 30

Router# clear ipv6 access-list list1

Router# show ipv6 access-list list1

IPv6 access list list1
  permit tcp any any log-input sequence 10
  permit icmp any any echo-request log-input sequence 20
  permit icmp any any echo-reply log-input sequence 30
```

## IPv6 セキュリティへのトラフィック フィルタおよびファイアウォールの実装の設定例

ここでは、次の設定例について説明します。

- 「IPv6 ACL の作成および適用：例」(P.26)
- 「vty へのアクセスの制御：例」(P.28)
- 「TCP または UDP マッチングの設定：例」(P.28)
- 「Cisco IOS Firewall for IPv6 の設定：例」(P.29)

### IPv6 ACL の作成および適用：例

ここでは、ipv6 ACL の作成および適用の例を示します。

- 「Release 12.2(13)T または 12.0(23)S 用の IPv6 ACL の作成および適用：例」(P.26)
- 「12.2(11)T、12.0(22)S、または以前のリリース用の IPv6 ACL の作成および適用：例」(P.27)

### Release 12.2(13)T または 12.0(23)S 用の IPv6 ACL の作成および適用：例

次に、Cisco IOS Release 12.2(13)T を実行しているルータの例を示します。

この例では、OUTBOUND および INBOUND という名前の 2 つの IPv6 ACL を設定し、両方の ACL をイーサネット インターフェイス 0 上の発信トラフィックと着信トラフィックに適用します。OUTBOUND リスト内の最初と 2 番めの許可エントリは、ネットワーク 2001:0DB8:0300:0201::/32 から送信されたすべての TCP および User Datagram Protocol (UDP; ユーザ データグラム プロトコル) パケットがイーサネット インターフェイス 0 から出て行くことを許可します。また、エントリは REFLECTOUT という名前の一時的な IPv6 リフレクシブ ACL を設定して、イーサネット インターフェイス 0 上で回帰 (着信) TCP および UDP パケットをフィルタリングします。OUTBOUND リストの最初の拒否エントリは、ネットワーク fec0:0:0:0201::/64 から送信されたすべてのパケット (送信元 IPv6 アドレスの最初の 64 ビットとしてサイトローカルプレフィクス fec0:0:0:0201 を持つパケット) がイーサネット インターフェイス 0 から出て行くことを拒否します。

INBOUND リストの **evaluate** コマンドは、REFLECTOUT という名前の一時的な IPv6 リフレクシブ ACL をイーサネット インターフェイス 0 上の着信 TCP および UDP パケットに適用します。OUTBOUND リストによって発信 TCP または UDP パケットがイーサネット インターフェイス 0 上で許可された場合、INBOUND リストは REFLECTOUT リストを使用して、回帰 (着信) TCP および UDP パケットを照合 (評価) します。

```
ipv6 access-list OUTBOUND
 permit tcp 2001:0DB8:0300:0201::/32 any reflect REFLECTOUT
 permit udp 2001:0DB8:0300:0201::/32 any reflect REFLECTOUT
 deny fec0:0:0:0201::/64 any

ipv6 access-list INBOUND
 evaluate REFLECTOUT

interface ethernet 0
 ipv6 traffic-filter OUTBOUND out
 ipv6 traffic-filter INBOUND in
```



(注)

OUTBOUND または INBOUND ACL の最後のエントリとして **permit any any** 文が含まれていないので、イーサネット インターフェイス 0 への出入りが許可されるのは、ACL に設定された許可エントリに一致する TCP と UDP パケット、および ACL 内の暗黙的な許可条件に一致する ICMP パケットだけになります (ACL の末尾にある暗黙的な **deny all** 条件は、インターフェイス上の他のすべてのパケット タイプを拒否します)。

次の例は、Cisco IOS Release 12.2(13)T または 12.0(23)S を実行するルータ上で実行できます。

次の例は、HTTP アクセスを日中の特定の時間に制限し、許可時間外のアクティビティを記録するように設定します。

```
time-range lunchtime
 periodic weekdays 12:00 to 13:00

ipv6 access-list OUTBOUND
 permit tcp any any eq www time-range lunchtime
 deny tcp any any eq www log-input
 permit tcp 2001:0DB8::/32 any
 permit udp 2001:0DB8::/32 any
```

## 12.2(11)T、12.0(22)S、または以前のリリース用の IPv6 ACL の作成および適用 : 例

次に、Cisco IOS Release 12.2(11)T、12.0(22)S、または以前のリリースを実行するルータでの例を示します。

この例では、list2 という名前の IPv6 ACL を設定し、その ACL をイーサネット インターフェイス 0 上の発信トラフィックに適用します。特に、最初の ACL エントリは、ネットワーク fec0:0:0:2::/64 (送信元 IPv6 アドレスの最初の 64 ビットとしてサイトローカルプレフィクス fec0:0:0:2 を持つパケット)

がイーサネット インターフェイス 0 から出て行くことを拒否します。2 番目の ACL エントリは、その他のすべてのトラフィックがイーサネット インターフェイス 0 から出て行くことを許可します。2 番目のエントリは、各 IPv6 ACL の末尾に暗黙的な **deny all** 条件があるため、必要となります。

```
ipv6 access-list list2 deny fec0:0:0:2::/64 any
ipv6 access-list list2 permit any any
```

```
interface ethernet 0
  ipv6 traffic-filter list2 out
```

同じ設定が、Cisco IOS Release 12.2(13)T、12.0(23)S、または以降のリリースを実行しているルータで使用されていた場合、その設定は次のように IPv6 アクセス リスト コンフィギュレーション モードに変換されます。

```
ipv6 access-list list2
  deny ipv6 fec0:0:0:2::/64 any
  permit ipv6 any any
```

```
interface ethernet 0
  ipv6 traffic-filter list2 out
```



(注) IPv6 は、グローバル コンフィギュレーション モードから IPv6 アクセス リスト コンフィギュレーション モードに変換される **permit any any** 文および **deny any any** 文でプロトコル タイプとして自動的に設定されます。

## vty へのアクセスの制御：例

次の例では、仮想端末回線 0 ~ 4 に着信する接続は、**acl1** という名前の IPv6 アクセス リストに基づいてフィルタリングされます。

```
ipv6 access-list acl1
  permit ipv6 host 2001:0DB8:0:4::2/32 any
!
line vty 0 4
  ipv6 access-class acl1 in
```

## TCP または UDP マッチングの設定：例

次の例では、AH の有無にかかわらず、すべての TCP トラフィックを許可しています。

```
IPv6 access list example1
  permit tcp any any
```

次の例では、AH ヘッダーが存在する場合にだけ TCP または UDP 解析を許可しています。AH が存在しない TCP または UDP トラフィックでは、マッチングは実行されません。

```
IPv6 access list example2
  deny tcp host 2001::1 any log sequence 5
  permit tcp any any auth sequence 10
  permit udp any any auth sequence 20
```

次の例では、認証ヘッダーを持つすべての IPv6 トラフィックを許可しています。

```
IPv6 access list example3
  permit ahp any any
```

## Cisco IOS Firewall for IPv6 の設定 : 例

この Cisco IOS Firewall 設定例では、インバウンドフィルタおよびアウトバウンドフィルタを検査に使用し、アクセスリストを利用してトラフィックを管理しています。この検査メカニズムは、状態が維持される、既存のセッションの間有効なパケットに基づいて、戻されてくるトラフィックを許可する方法です。

```
enable
configure terminal
  ipv6 unicast-routing
  ipv6 inspect name ipv6_test icmp timeout 60
  ipv6 inspect name ipv6_test tcp timeout 60
  ipv6 inspect name ipv6_test udp timeout 60

interface FastEthernet0/0
  ipv6 address 3FFE:C000:0:7::/64 eui-64
  ipv6 enable
  ipv6 traffic-filter INBOUND out
  ipv6 inspect ipv6_test in

interface FastEthernet0/1
  ipv6 address 3FFE:C000:1:7::/64 eui-64
  ipv6 enable
  ipv6 traffic-filter OUTBOUND in

! This is used for 3745b connection to tftpboot server
interface FastEthernet4/0
  ip address 192.168.17.33 255.255.255.0
  duplex auto
  speed 100

ip default-gateway 192.168.17.8
! end of tftpboot server config

! Access-lists to deny everything except for Neighbor Discovery ICMP messages
ipv6 access-list INBOUND
  permit icmp any any nd-na
  permit icmp any any nd-ns
  deny ipv6 any any log

ipv6 access-list OUTBOUND
  permit icmp any any nd-na
  permit icmp any any nd-ns
  deny ipv6 any any log
```

## その他の関連資料

ここでは、IPv6 セキュリティへのトラフィック フィルタおよびファイアウォール機能の実装に関する関連資料について説明します。

## 関連資料

関連項目	参照先
IPv6 IPsec	『Cisco IOS IPv6 Configuration Guide』の「 <a href="#">Implementing IPsec in IPv6 Security</a> 」
基本的な IPv6 設定	『Cisco IOS IPv6 Configuration Guide』の「 <a href="#">Implementing IPv6 Addressing and Basic Connectivity</a> 」
IPv6 のサポート機能リスト	『Cisco IOS IPv6 Configuration Guide』の「 <a href="#">Start Here: Cisco IOS Software Release Specifics for IPv6 Features</a> 」
IPv6 コマンド：コマンド構文、コマンドモード、デフォルト、使用上のガイドライン、および例	『Cisco IOS IPv6 Command Reference』

## 規格

規格	タイトル
この機能によってサポートされる新しい規格または変更された規格はありません。またこの機能による既存規格のサポートに変更はありません。	—

## MIB

MIB	MIB リンク
新しい MIB または変更された MIB はサポートされていません。また、既存の MIB に対するサポートに変更はありません。	選択したプラットフォーム、Cisco IOS リリース、および機能セットの MIB を検索してダウンロードする場合は、次の URL にある Cisco MIB Locator を使用します。 <a href="http://www.cisco.com/go/mibs">http://www.cisco.com/go/mibs</a>

## RFC

RFC	タイトル
RFC 2401	『Security Architecture for the Internet Protocol』
RFC 2402	『IP Authentication Header』
RFC 2428	『FTP Extensions for IPv6 and NATs』
RFC 2460	『Internet Protocol, Version 6 (IPv6) Specification』
RFC 2474	『Definition of the Differentiated Services Field (DS Field) in the IPv4 and IPv6 Headers』
RFC 3576	『Change of Authorization』

## シスコのテクニカル サポート

説明	リンク
<p>右の URL にアクセスして、シスコのテクニカル サポートを最大限に活用してください。</p> <p>以下を含むさまざまな作業にこの Web サイトが役立ちます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• テクニカル サポートを受ける</li> <li>• ソフトウェアをダウンロードする</li> <li>• セキュリティの脆弱性を報告する、またはシスコ製品のセキュリティ問題に対する支援を受ける</li> <li>• ツールおよびリソースへアクセスする</li> <li>• Product Alert の受信登録</li> <li>• Field Notice の受信登録</li> <li>• Bug Toolkit を使用した既知の問題の検索</li> <li>• Networking Professionals (NetPro) コミュニティで、技術関連のディスカッションに参加する</li> <li>• トレーニング リソースへアクセスする</li> <li>• TAC Case Collection ツールを使用して、ハードウェアや設定、パフォーマンスに関する一般的な問題をインタラクティブに特定および解決する</li> </ul> <p>この Web サイト上のツールにアクセスする際は、Cisco.com のログイン ID およびパスワードが必要です。</p>	<p><a href="http://www.cisco.com/en/US/support/index.html">http://www.cisco.com/en/US/support/index.html</a></p>

## IPv6 セキュリティへのトラフィック フィルタおよびファイアウォールの実装の機能情報

表 1 に、この章に記載されている機能および具体的な設定情報へのリンクを示します。この表には、Cisco IOS Release 12.2(2)T 以降のリリースで導入または変更された機能だけを示します。

ここに記載されていないこのテクノロジーの機能情報については、「[Start Here: Cisco IOS Software Release Specifics for IPv6 Features](#)」を参照してください。

ご使用の Cisco IOS ソフトウェア リリースによっては、コマンドの中に一部使用できないものがあります。特定のコマンドに関するリリース情報については、コマンドリファレンス マニュアルを参照してください。

プラットフォームのサポートおよびソフトウェア イメージのサポートに関する情報を検索するには、Cisco Feature Navigator を使用します。Cisco Feature Navigator を使用すると、Cisco IOS ソフトウェア イメージおよび Catalyst OS ソフトウェア イメージがサポートする特定のソフトウェア リリース、機能セット、またはプラットフォームを確認できます。Cisco Feature Navigator には、<http://www.cisco.com/go/cfn> からアクセスします。Cisco.com のアカウントは必要ありません。



(注) 表 1 には、一連の Cisco IOS ソフトウェア リリースのうち、特定の機能が初めて導入された Cisco IOS ソフトウェア リリースだけが記載されています。特に明記していないかぎり、その機能は、一連の Cisco IOS ソフトウェア リリースの以降のリリースでもサポートされます。

表 1 IPv6 セキュリティへのトラフィック フィルタおよびファイアウォールの実装の機能情報

機能名	リリース	機能情報
IPv6 サービス：標準アクセス コントロール リスト	12.0(22)S 12.2(14)S 12.2(28)SB 12.2(25)SG 12.2(33)SRA 12.2(17a)SX1 12.2(2)T 12.3 12.3(2)T 12.4 12.4(2)T	<p>アクセス リストによって、ルータ インターフェイスでブロックされるトラフィックおよび転送されるトラフィックが決定され、送信元アドレスと宛先アドレスに基づいて、特定のインターフェイスへの着信と発信をフィルタリングできます。</p> <p>この機能に関する詳細については、次の各項を参照してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「IPv6 セキュリティへのトラフィック フィルタおよびファイアウォールの実装の制約事項」(P.2)</li> <li>「IPv6 トラフィック フィルタリングのアクセス コントロール リスト」(P.2)</li> <li>「Cisco IOS Firewall for IPv6 での PAM」(P.4)</li> <li>「IPv6 セキュリティへのトラフィック フィルタおよびファイアウォールの実装方法」(P.5)</li> <li>「IPv6 セキュリティへのトラフィック フィルタおよびファイアウォールの実装の設定例」(P.26)</li> </ul>
IPv6 サービス：拡張アクセス コントロール リスト <sup>1</sup>	12.0(23)S 12.2(14)S 12.2(28)SB 12.2(25)SG 12.2(33)SRA 12.2(17a)SX1 12.2(13)T 12.3 12.3(2)T 12.4 12.4(2)T	<p>標準の IPv6 ACL 機能が拡張されて、IPv6 オプション ヘッダー、および任意でより細かい制御を行うための上位層プロトコル タイプ情報に基づくトラフィック フィルタリングがサポートされています。</p> <p>この機能に関する詳細については、次の各項を参照してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「IPv6 セキュリティへのトラフィック フィルタおよびファイアウォールの実装の制約事項」(P.2)</li> <li>「IPv6 トラフィック フィルタリングのアクセス コントロール リスト」(P.2)</li> <li>「IPv6 セキュリティへのトラフィック フィルタおよびファイアウォールの実装方法」(P.5)</li> <li>「IPv6 セキュリティへのトラフィック フィルタおよびファイアウォールの実装の設定例」(P.26)</li> </ul>
IPv6 サービス：IPv6 IOS ファイアウォール	12.3(7)T 12.4 12.4(2)T	<p>この機能を使用すると、高度なトラフィック フィルタリング機能をネットワークのファイアウォールの不可欠な部分として組み込むことができます。</p> <p>この機能に関する詳細については、次の各項を参照してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「Cisco IOS Firewall for IPv6」(P.3)</li> <li>「Cisco IOS Firewall for IPv6 の設定」(P.14)</li> </ul>



表 1 IPv6 セキュリティへのトラフィック フィルタおよびファイアウォールの実装の機能情報 (続き)

機能名	リリース	機能情報
IPv6 サービス : IPv6 IOS ファイアウォール FTP アプリケーション サポート	12.3(11)T 12.4 12.4(2)T	IPv6 は、この機能をサポートします。  この機能に関する詳細については、次の項を参照してください。  <ul style="list-style-type: none"> <li>「Cisco IOS Firewall for IPv6」(P.3)</li> </ul>
IPsec 認証ヘッダー用の IPv6 ACL 拡張	12.4(20)T	IPsec 認証ヘッダー用の IPv6 ACL 拡張機能を使用すると、IPv6 IPsec 認証ヘッダーが存在する場合には、TCP または UDP 解析を実行できます。  この機能に関する詳細については、次の項を参照してください。  <ul style="list-style-type: none"> <li>「IPsec 認証ヘッダーの IPv6 ACL 拡張」(P.2)</li> </ul>

- IPv6 拡張アクセス コントロール リストおよび Multiprotocol Label Switching (MPLS; マルチプロトコル ラベル スイッチング) を介した IPv6 プロバイダー エッジ ルータは、Cisco IOS Release 12.0(25)S 以降のリリースの Cisco IOS ルータでの Cisco 12000 シリーズ インター ネット ルータ IP Service Engineer (ISE) ラインカード上のハードウェア アクセラレータを使用して実装されています。

CCDE, CCENT, CCSI, Cisco Eos, Cisco Explorer, Cisco HealthPresence, Cisco IronPort, the Cisco logo, Cisco Nurse Connect, Cisco Pulse, Cisco SensorBase, Cisco StackPower, Cisco StadiumVision, Cisco TelePresence, Cisco TrustSec, Cisco Unified Computing System, Cisco WebEx, DCE, Flip Channels, Flip for Good, Flip Mino, Flipshare (Design), Flip Ultra, Flip Video, Flip Video (Design), Instant Broadband, and Welcome to the Human Network are trademarks; Changing the Way We Work, Live, Play, and Learn, Cisco Capital, Cisco Capital (Design), Cisco:Financed (Stylized), Cisco Store, Flip Gift Card, and One Million Acts of Green are service marks; and Access Registrar, Aironet, AllTouch, AsyncOS, Bringing the Meeting To You, Catalyst, CCDA, CCDP, CCIE, CCIP, CCNA, CCNP, CCSP, CCVP, Cisco, the Cisco Certified Internetwork Expert logo, Cisco IOS, Cisco Lumin, Cisco Nexus, Cisco Press, Cisco Systems, Cisco Systems Capital, the Cisco Systems logo, Cisco Unity, Collaboration Without Limitation, Continuum, EtherFast, EtherSwitch, Event Center, Explorer, Follow Me Browsing, GainMaker, iLynX, IOS, iPhone, IronPort, the IronPort logo, Laser Link, LightStream, Linksys, MeetingPlace, MeetingPlace Chime Sound, MGX, Networkers, Networking Academy, PCNow, PIX, PowerKEY, PowerPanels, PowerTV, PowerTV (Design), PowerVu, Prisma, ProConnect, ROSA, SenderBase, SMARTnet, Spectrum Expert, StackWise, WebEx, and the WebEx logo are registered trademarks of Cisco and/or its affiliates in the United States and certain other countries.

All other trademarks mentioned in this document or website are the property of their respective owners. The use of the word partner does not imply a partnership relationship between Cisco and any other company. (1002R)

このマニュアルで使用している IP アドレスおよび電話番号は、実際のアドレスおよび電話番号を示すものではありません。マニュアル内の例、コマンド出力、および図は、説明のみを目的として使用されています。説明の中に実際のアドレスが使用されていたとしても、それは意図的なものではなく、偶然の一致によるものです。

© 2001–2010 Cisco Systems, Inc.  
All rights reserved.

Copyright © 2001–2010, シスコシステムズ合同会社.  
All rights reserved.

